

乳用牛確保・改良促進対策事業

現状と課題

畜産課：11,268千円

- 酪農家の高齢化や後継者不足によって飼養戸数・飼養頭数が減少している中、県単事業等を活用した外部からの高能力な乳用牛の導入の活用、繁殖成績の向上等により、生乳生産量は維持している。
- しかしながら、佐賀県における経産牛の1頭当たりの年間搾乳量は、依然として都府県平均より低く推移している。
- 酪農家の経営改善及び県生乳生産量の維持・拡大を図るためには、1頭当たりの乳量を増加することが重要である。
- また、経営規模の維持・拡大を図るためには、外部導入に加えて自家育成による後継牛の確保を推進することが必要である。

R6要求の考え方

①乳用牛の確保に資する取組 及び ②繁殖成績向上に資する取組に対して助成する。

R6要求の概要

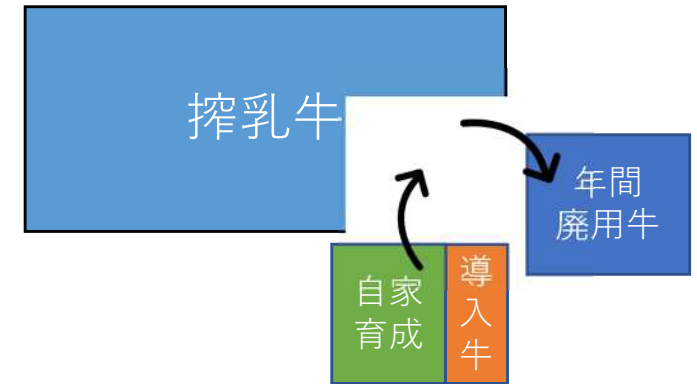
- 次表に掲げる対象経費の一部を助成する。

対象経費	補助率	事業量	県補助金
① 乳用牛の確保に資する取組			
ア 高能力な乳用牛の導入	定額70千円	80頭	5,600千円
イ 自家育成による後継牛の確保に対する助成	定額20千円	200頭	4,000千円
ウ 高能力な乳用牛の性判別精液の利用	1,500円/本を超える額の1/2	210本	735千円
② 繁殖成績向上に資する取組			
ア 乳汁検査	1/3以内	500回分	134千円
イ 繁殖検診		5戸分	800千円
計	—	—	11,268千円

生乳生産基盤を安定させるための対策（イメージ）

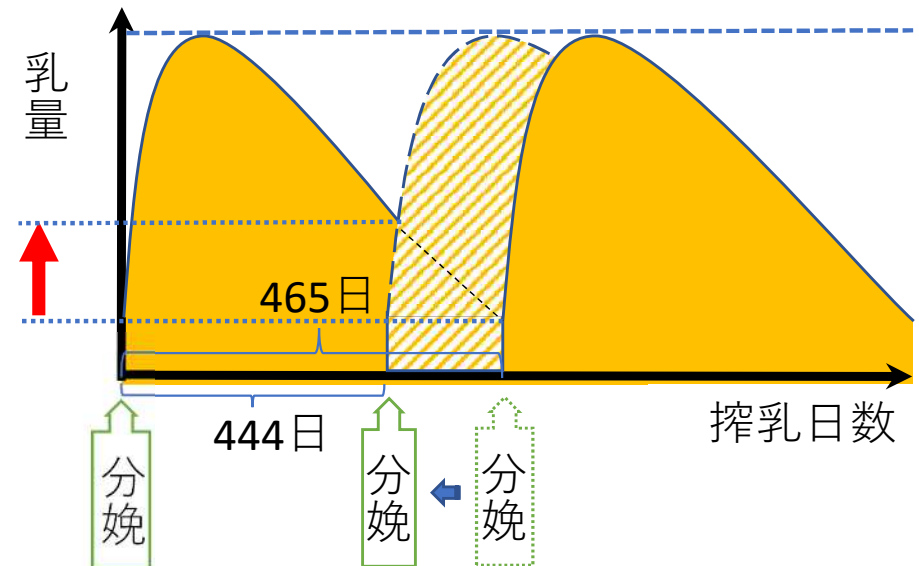
①乳用牛の確保による生産基盤の安定・強化

- ア 高能力な乳用牛の外部導入
- イ 自家育成による後継牛の確保に対する助成
- ウ 高能力な乳用牛精液の利用



②繁殖成績向上による乳量の増加

- ア 乳汁検査による妊娠判定技術の活用
- イ 繁殖検診によるモデル的な取組



乳用牛頭数を
確保する取組

- ◇酪農経営の安定・強化
- ◇生乳生産量の維持

乳量を増加
させる取組

どちらの取組も必要

乳用牛の確保による生産基盤の安定・強化を図るための取組

佐賀県の乳用牛飼養頭数を維持・拡大するためには年間廃用牛頭数を超える乳用牛を確保する必要がある。

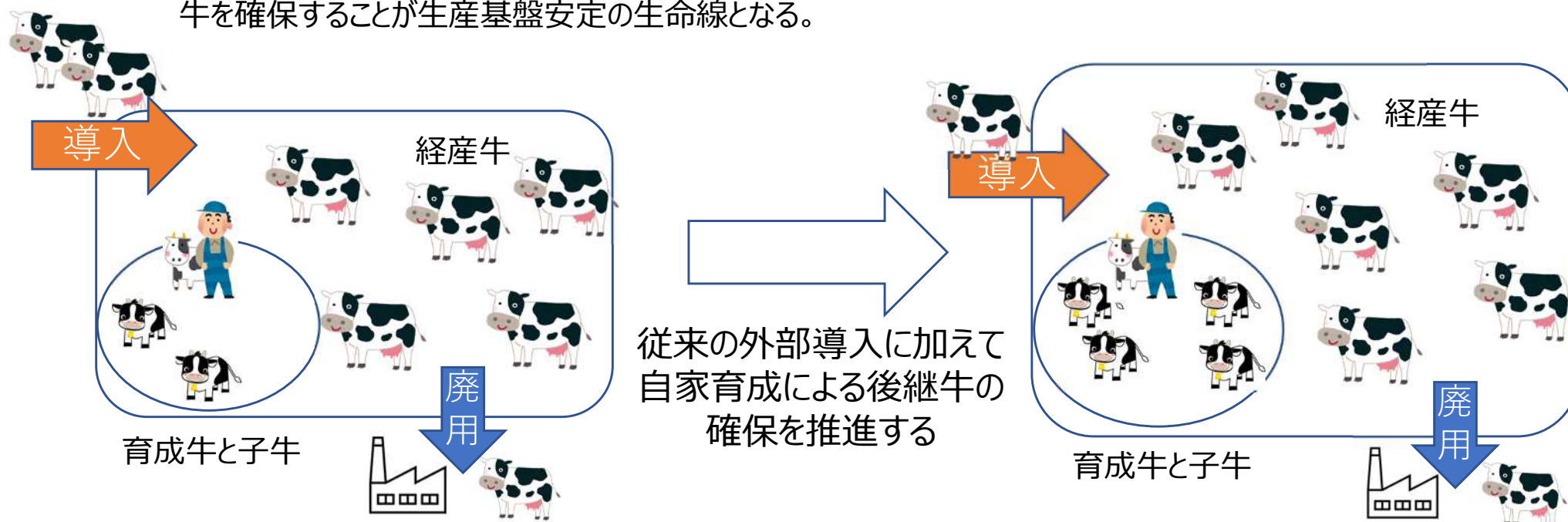
- ア 高能力な乳用牛の外部導入に対し定額助成し、乳用牛頭数を維持・拡大する。
- イ 自家育成による後継牛の確保に対して定額助成し、将来的な生産基盤を安定させる。
- ウ 高能力な乳用牛の精液と一般的な精液の購入価格の差額に対して助成し、後継牛改良を促進する

佐賀県の酪農状況（29戸）	R1	R2	R3	R4	R5
飼養頭数（頭）	1,951	2,003	1,922	1,964	1,899
外部導入数（頭）	54	55	60	70	60※
育成牛、子牛の飼養頭数（頭）	498	488	404	421	409

※R5年度は予定数

全体の飼養頭数はここ数年大きく変動していないが、育成牛と子牛の飼養頭数は減少傾向にあり、外部から乳用牛を導入することで、頭数の維持をしている状況である。

しかし、外部導入は市場価格の影響を受けやすく、飼料価格高騰により酪農経営が厳しくなっていることから、今後も現在の頭数を維持・拡大するためには外部導入だけではなく、自家育成率を高め、後継牛を確保することが生産基盤安定の生命線となる。



①ーア 高能力な乳用牛の外部導入

高能力な乳用牛の外部導入に対し定額助成し、乳用牛頭数を維持・拡大する。

・初妊牛 70千円/頭

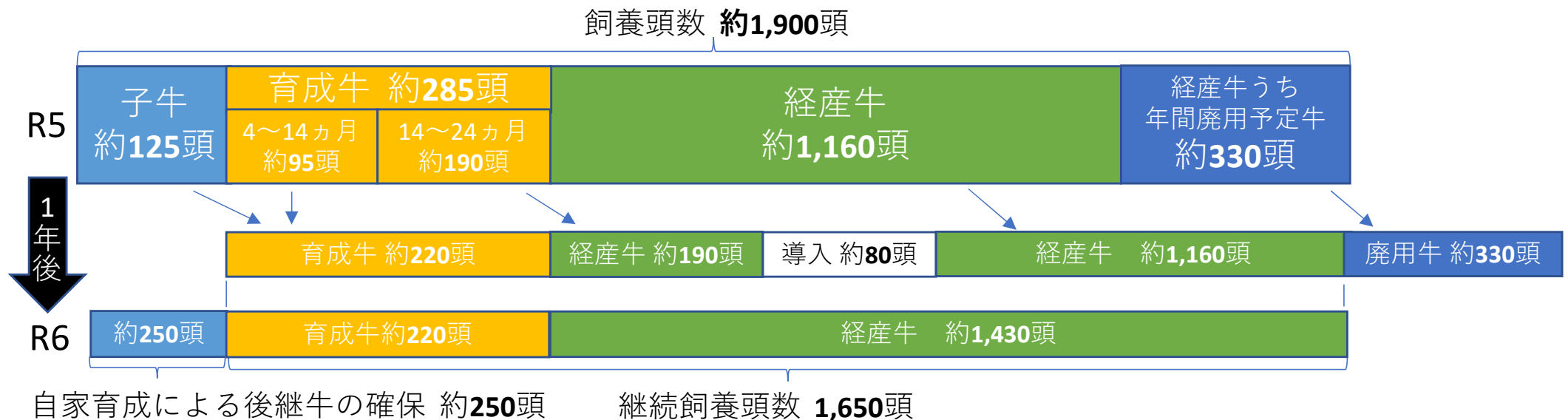
《補助対象牛》

・経営内の牛群改良の基礎となりうる能力を持つこと。

・導入した牛については、原則として乳用種精液を授精し、後継牛を確保すること。

【導入必要頭数の考え方】

酪農家が、現在の乳用牛頭数を維持するためには、自家育成で補えない頭数を外部導入により確保する必要がある。



(参考)

R4年度事業導入実績

J Aさが

初妊牛 66頭

J Aからつ

初妊牛 4頭

【助成金の考え方】

優良牛の外部導入80頭の確保が必要

70千円×80頭 = 5,600千円

【予算額】

5,600千円

①ーイ 自家育成による後継牛の確保に対する助成

自家育成により確保した乳用雌子牛に対し定額助成し、生産基盤を安定・強化させる。

・乳用雌子牛 20千円/頭

《補助対象牛》

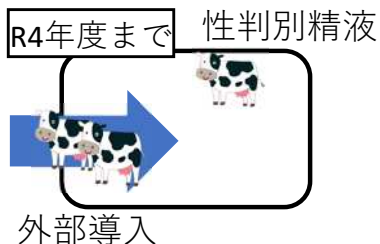
- ・事業年度に出生した乳用雌子牛であること。
- ・出生後、速やかに耳標登録を行うこと。

現状と課題

・所得確保に繋がる黒毛和種精液の授精が増えたため、**自家育成に向ける割合が低い**（中小規模経営体に多い）。

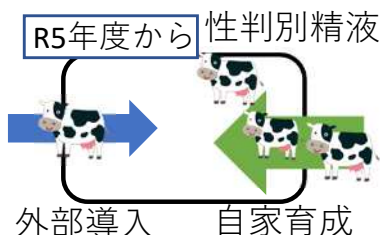
・労働力削減のため自家育成を行わず経産牛の更新を全て外部導入で行う方針の酪農家もいる（大規模経営体の一部）。

自家育成の割合が低くなると、飼養頭数が維持できなくなり、県内の生産基盤が縮小してしまう。そのため、自家育成の支援を求める声が上がっている。



- ・高能力な乳用牛を導入し、牛群を改良するために150千円/頭の助成を実施。
- ・後継牛改良を促進するために性判別精液1,500円/本を超える額の1/2の補助を実施。

変更・追加



- ・高能力な乳用牛を導入し、牛群を改良するために**70千円/頭**の助成を実施。
- ・後継牛改良を促進するために性判別精液1,500円/本を超える額の1/2の補助を実施。
- ・高能力な乳用後継牛を確保するために、**自家育成した乳用雌子牛に対して助成を実施**

	経産牛 頭数	経産牛 1 頭 当たり年間搾乳量	生乳 生産量
H30	1,640頭	8,506kg	14,715千t
R12	2,100頭	8,700kg	17,400千t

目標を達成に向けて

高能力な乳用牛の導入に加えて、自家育成による後継牛の確保を促進することで、足腰の強い生産基盤を作る。

〈参考〉：佐賀県酪農・肉用牛生産近代化計画（令和3年3月策定）

単価の考え方（乳用雌子牛の育成にかかる飼料費）

	R4年度価格	給与量	飼料費
代用乳	748円/kg	40.6kg	30,368円
人工乳	138円/kg	92.7kg	12,855円
計			43,223円

約半分を補助

定額
20千円/頭

【事業費】

20千円/頭×200頭
= 4,000千円

【予算額】
4,000千円

①ーウ 高能力な乳用牛の性判別精液の利用

高能力な乳用牛の精液と一般的な精液の購入価格の差額に対して助成し、後継牛改良を促進する。

・ 1,500円/本を超える額の1/2以内

《補助対象精液》

・ 家畜改良センターの乳用牛評価報告（国内種雄牛及び海外種雄牛）で総合評価指数が20位以内の性判別精液

※性判別精液：乳量等の向上効果が期待でき、殆どが雌牛が生まれる乳用牛の精液

【性判別精液の必要本数の考え方】

項 目		備考
経産牛頭数	1,490	R5年2月1日
受胎に要した受精回数	2.6回	R3年度：佐賀県2.6回、都道府県平均2.4回 （最新R3年度牛群検定成績）
ホルスタイン精液利用率	7.7%	令和4年度佐賀県人工授精状況 （日本家畜人工授精師会）
ホルスタイン精液必要本数	299本	授精頭数115頭（1,490×7.7%）×授精回数（2.6回）
令和4年度 J Aさが・からつ利用率は約35.6%（ホルスタイン精液本数1,113本のうち性判別精液利用397本）		
後継牛改良促進するため、高能力な乳用牛の性判別精液利用率70%以上を目指す		
補助対象とする必要精液本数 210本 （298本×70%＝約209本）		

【補助金の考え方】

性判別精液を購入する経費から1,500円を超える額の1/2を補助。

性判別精液の平均価格は8,500円/本

$(8,500円 - 1,500円) \div 2 = 3,500円/本$

$3,500円/本 \times 210本 = 735千円$

【予算額】

735千円

②－ア 繁殖成績向上に資する取組（乳汁検査）

簡易妊娠判定技術（乳汁検査経費）に対して助成し、分娩間隔を短縮する。

- ・ 乳汁検査経費の1/3以内

【乳汁検査（妊娠関連糖タンパクPAGの検査）の仕組み】

★PAG（Pregnancy Associated Glycoproteins：妊娠関連糖タンパク）とは？

⇒妊娠時のみ胎盤より分泌される糖タンパク。

目的：人工受精後の乳汁検査で不受胎牛を早期発見する。

乳汁を採取



乳汁検査

PAGレベル
を調査

判 定

妊娠／不受胎

人工授精後28日より
妊娠確認が可能

【補助金の考え方】

分娩間隔短縮を目的とする乳汁検査普及のため、
JAの要望の500回分を補助。

乳汁検査数500回×800円×1/3＝約134千円

【予算額】

134千円

②ーイ 繁殖成績向上に資する取組（繁殖検診）

県外獣医師の協力を得て繁殖検診を行うモデル的な取組に対して助成し、繁殖成績の向上を図る

- ・繁殖検診経費の1/3以内

《繁殖検診の条件》

- ・モデル農家を選定すること（繁殖検診が不足している農家を中心に選定）
- ・県外獣医師の協力を得て、繁殖検診と併せて飼養管理・繁殖管理の技術向上を図りモデル的な取組とすること。

【概要】

県外獣医師の協力を得て繁殖検診（月1回、5戸）を行い、併せて飼養管理・繁殖管理の技術指導を受けて繁殖成績の向上を図るモデル的な取組に対して助成する。

【モデル農家5戸 飼養規模】

A： 31頭

B： 17頭

C： 37頭

D： 54頭

E： 41頭

継続して繁殖検診
を実施

【繁殖検診の内容】

- ・フレッシュチェック、発情の診断、低受胎牛の原因診断、栄養状態の改善
- ・ホルモン処置による排卵促進
- ・飼養管理・繁殖管理の技術指導

【補助金の考え方】

繁殖検診費

事業費 $40\text{千円} \times 5\text{戸} \times 12\text{回} = 2,400\text{千円}$

$2,400\text{千円} \times \text{補助率 } 1/3 = 800\text{千円}$

【予算額】

800千円